

初的女性駐日米大使に就任したキャロライン・ケネディ氏のお母様は、ジャクリン・ケネディ・オナシス。王室のないアメリカでケネディ家が「ケネディ王朝」とも呼ばれるのは、第35代大統領ジョージ・F・ケネディ(1区)と、その妻ジャクリンが今なお、伝説的な存在として人々の心に憧れを呼び起すからでしょう。

# Style アイコン

## 【ジャクリン・ケネディ・オナシス】

### 突然の悲劇 伝えた装い

強く表現しています。パステルカラーのワンピースやスーツ、ピルボックスと呼ばれる円形の縁なし帽にパールのネックレス。写真写りの良さを意識したスタイルは、行く先々でメディアに大きく取り上げられます。時代を導く若々しさと、明るくエ



AP

ネルギーにあふれた清新なファッションは、政権のイメージそのものと重なりました。現ファーストレディー、ミシェル・奥巴马が、08年の大統領選の時にオシロイ色のワンピースに真珠のネックレス、髪形はボブといふジャケットを思わせるスタイルを採用したのは有名な話。ジャッキー・ルックには、1区時代の若々しく希望に輝いていた米国の黄金期の幻影を呼びびます。カシエあるのです。であり続けた女性の娘、キャロライン氏「写真右」は、ファッションへの関心をきほどいながら、ダンス訪問時に着ていたピンクのスーツ。今から50年前、このスーツは銃弾に倒れた夫の血に染まったのですが、彼女は着替えることなく、副大統領だ

つたランドン・ジョンソンの大統領就任宣誓式に立ち会いました。世界中に突然の悲劇の衝撃を伝えるのに、これほどエモーショナルな装いはあつたでしょうか。海運王オナシスと再婚した後も、大きなサンダラス、幅広いパンツにシルクスカーフといったリッチなかつるぎの装いが「ジャッキー・オナシス」として世界中で模倣されています。

生涯ファッションアイコンであり続けた女性の娘、キャロライン氏「写真右」は、ファッションへの関心をきほどいながら、ダンス訪問時に着ていたピンクのスーツ。今から50年前、このスーツは銃弾に倒れた夫の血に染まったのですが、彼女は着替えることなく、副大統領だ

(エッセイスト 中野香織)